

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題	
地歴公民科	中高一貫校として整備が進む中、工夫された教育課程をおとして、生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。実施にあたっては、各年次や分掌と協力し、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1) 第1年次および2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着をはかる。第3年次においては、授業を基本として学習を進めることに加え、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。	1,2				
		2) 附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、高校入学までの学習内容の把握に努める。	1,2				
		3) 各科目とも、授業内容は大学入試センター試験以上の水準を維持する。3年次では11月末までに教科書の範囲を終了させ、発展的な学習に移行し生徒の実践力を高める。	1,2				
		4) それぞれの科目の授業をおとして、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身につけさせる。	1,10				
	2	1) 地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。	1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身につけさせる。	1,2,6			
		2) 3年次の授業では、1・2年次の内容基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。	1,2				
	3	公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。	1) 1年次の「現代社会」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。	2,11			
			2) 3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着をはかるとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学入試センター試験以上の水準を維持する。	2,6			
数 学	1 3年間を見通した学力の養成	1) 1年次（高入） 基本の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。タブレット端末を用いた学力向上のための指導法を研究する。	2				
		1年次（内進） 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して応用能力を養っていく。タブレット端末を用いた学力向上のための指導法を研究する。	2				
		2) 2年次（普通科）教科書の内容の理解の徹底を図り、さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。	2				
	2 指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底、計算力の育成	3 成績上位者のさらなる学力向上	2) 2年次（サイエンス科）教科書の内容の理解の徹底はもちろん、発展的な内容の問題演習も行い実力養成を図る。	2			
			3) 3年次 少人数の授業を生かすことで、文系、理系を問わず、センター試験に対応するだけでなく、記述力の養成を図る。	1,2			
			「日々の演習（3年次）」により基礎力を培う。「週課題（2年次）」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週課題」を課し、単元ごとに章末テストを行う。	1,2			
			成績上位者に対する個別指導を行う。	1,2			
			予習・復習の習慣化を徹底し、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	1,2			
5 既習分野の実力育成	課外等により、既習分野の学習内容の理解を深め、次年度の授業につながる学力を養成する。	1,2					
6 「科学する心」の育成	科学研究や白雲数学の授業を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	1,10					
7 中高6年間を通じた指導の研究	発達段階に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	1					
理科	1 自然現象の中に見られる物理法則の学習を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。	演示実験や生徒実験を多く行い、物理の基本概念をつかませることに努める。	1,2,9				
	2 身の回りにある物質に対する興味・関心を持たせ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	演示実験や生徒実験を多く行い、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業をめざす。	1,2,9				
	3 生物学的に物事を探求する態度を育てるとともに、基本的な生命の概念や生命現象の原理・法則を理解させる。	観察・実験を通して生命や生命現象に興味を持たせるとともに、具体的なイメージを持たせる。	1,2,9				
	4 身の回りの自然や物事を探求する態度を育てるとともに、地学的な知識・原理・法則を身につけさせる。	観察・実験を通して地球や自然現象についての概念を持たせることに努める。	1,2,9				
	5 センター試験及び二次試験に十分対応できる学力を身につけさせる。	二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	2				
	6 新教育課程に即し、入試にも対応した科学的知識、教養を身につけさせる。	受験も考慮した、新教育課程における授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。	1,2				
	7 科学的思考力・知的好奇心・探究心を育て、「科学する心」を育成する。	豊かな科学体験を通して個々の興味・関心を高め、知的好奇心の高揚に努める。生徒が互いに向上できるカリキュラムの検討に努める。プレゼンテーション能力の育成を目指した指導を推進する。	1,9,10				

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題
保健体育	1 個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともに、健康を高める能力と態度を育てる。	1) 個人としてだけでなく、これからの社会を担う一員として健康について考える重要性を理解させる。	1			
		2) 課題解決型グループ学習を通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	1			
		3) 視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する知識や技能を習得させる。	1,7			
	2 運動技能を高め、強健な心身の発達を施すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツができる能力と態度を育てる。	1) 体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	1			
		2) 各種目において、反復練習や課題練習を通して、運動技能を高める。	1			
		3) 各種目において、作戦を立て、攻防の仕方を工夫し、練習やゲームができるようにする。	1			
		4) 運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができるようにする。	1			
芸術	1 感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1) 芸術についての総合的な理解を深め、主体的な学習ができるように、適切な題材設定や指導に努める。	1			
		2) 表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	1			
	2 芸術系進路希望者の実力養成。	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	1,2			
英語	1 英語を読み、書き、聞き、話す活動を通して、実践的コミュニケーション力の基礎を習得させる。	1) 英語コミュニケーションⅠでは、少人数授業の利点を生かし、生徒の活動をベースとする授業を行い、内容理解力とともに自己表現力の育成に努める。	1			
		2) 英語表現Ⅰでは、ALTとの効果的な連携を図り、4技能の習得を意識しながら、基本的な文法や語彙の運用力を養成する。	1			
		3) 授業では、ペアワークやグループワークを活用し、4技能の統合を意識した英語活動を取り入れ、審査問題の工夫に努める。	1			
		4) 授業の補完的・発展的な学習として、課題(週末課題・宿題)や副教材を活用し、家庭学習の効果的な動機付けを図る。	1			
		5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化に努める。	1,2			
	2 読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1) 英語コミュニケーションⅡでは、教科書の訳読に終始せず、タスク活動をベースとした授業を行い、英文理解力と自己表現力の育成を図る。	1			
		2) 英語表現Ⅱでは、基本文法や語彙を反復練習し、ディベートなどの実践的な言語活動を通して、英語表現の基礎を育成する。	1			
		3) ペアワークやグループワークを活用し、授業の活性化と4技能の統合を意識した英語活動を取り入れる。	1			
		4) 授業の補完的・発展的な学習として週末課題や副教材などを活用し、家庭学習の効果的な動機付けを与える。	1			
		5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。	1,10			
	3 大学入試にも対応できる、実践的な英語理解力と表現力を養成する。	1) 英語コミュニケーションⅢでは、教科書を中心に十分なインプットを行い、要約の作成など実践的な英文理解力の養成に努める。	1			
		2) 英語表現Ⅱでは、語彙や文法の正確な運用力を育成し、様々な演習課題を通して実践的な英語表現力の養成に努める。	1			
		3) 自習課題や課外授業を活用し、生徒の英語力向上を効果的にサポートする。	1			
		4) 考査や小テストの内容や実施形態を工夫し、実践的な英語力養成への効果的な動機付けを図る。	1,2			
		5) 授業の内容や実施形態を工夫し、個別指導の充実も図りながら、効果的な入試対策指導を行う。	1,2			
家庭科	1 生活の営みを総合的に捉え、生活に必要な知識と技術の習得	1) 講義・実験・実習を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	9			
	2 男女が協力して家庭や地域との生活を創造する能力と実践的な態度の育成	2) 課題研究・実習を通して、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	9			
	3 家庭系進路希望の実力養成	3) 個別指導を通して、小論文・面接試験に対応できる応用力を養う。	2			
情報	1 情報社会に参画する態度の育成	1) 講義・実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、モラルを習得させる。	9,11			
	2 情報活用実践力の育成	2) 実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループ作業・プレゼンテーション活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	1,9			
	3 新教育課程及び入試問題の研究	3) 新教育課程における授業展開・学習指導法の研究・実践に努めると共に、進学希望者と入試問題について研究を進めていく。	1,2			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	1 学校行事の円滑な運営に努め、実施後に広く意見を集約し十分な検証を行う。新規行事に特に注意し、来年度以降の内容の充実に努める。	1) 学校行事の内容を十分検討し、適正な時期に計画し実施する。目的を明確にし、効果的な役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について検討を行い、内容の充実に努める。	1-11			
		2) 各学校行事について、関係する校務分掌や年次との連携を密にし円滑に運営出来るよう努める。また、附属中学校も含めた協働体制が構築されるよう努める。	1-11			
	2 生徒の自己実現を図るため、授業時間の確保に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。	1) 授業時数に偏りがなく、時間割変更を的確に行い調整する。時間割変更業務の円滑な運営に努める。	1, 2			
		2) 各教科との連携を密にし、より効果的な時間割編成に努める。	1, 2			
	3 各校務分掌、年次、教科が円滑に連携できるよう、学校運営の要として尽力する。また、これまでの取組に加え、今年度2年次に進級するサイエンス科の様々な取組についても積極的に支援する。	1) 校内定期考査および実力考査の適正な実施に努め、公正な評価を行えるよう考査環境を整備する。	1, 2, 8			
		2) 生徒の出欠について、正確な状況の把握に努め、関係各部との連絡調整を円滑に行う。	4, 11			
		3) 生徒の多様な進路希望に対応するため、授業展開や実施場所の工夫を行う。	1, 2			
		4) 奨学金に関する情報を、正確確実に提供し、生徒のより良い学習環境の実現を図る。	8			
	4 進学重視型単位制高校として、より選択幅の広い教育環境の充実に目指す。また、併設型中高一貫教育高として附属中学校との連携に取り組む。	1) 各科等で教育課程を工夫しやすいよう、様々な情報の提供に努める。	1, 2, 8			
		2) 附属中学校を含めた教育課程の研究を行い、併設型中高一貫校としてより効果的な教育内容の実施に努める。	1			
	5 進学重視型単位制高校として、魅力ある創造的な授業を目指し、授業方法及び評価の改善や研究に努める。	1) 教科や科目の目標と評価の観点を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。	2			
		2) 進路指導部や各年次と連携し、3年間をとおした学習計画を充実させる。	2			
3) 少人数教育の推進に努め、授業内容及び効果について点検や検証を進める。		1				
4) 教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努める体制を整備する。また、研究授業が盛んな中学籍の教員を活用し、より効果的な授業研究が行われるよう努める。		1				
6 特色ある取組として、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1) イギリス海外研修、海外サイエンスセミナー、高大接続事業、本校における様々な事業について、実施方法や内容について検証するとともに、各部が連携しやすいよう努める。また、入学希望者や生徒への広報に努める。	5, 6, 10				
進路指導部	1 生徒一人ひとりの目標達成に向け、適切な進路指導に努める。	1) 進路に関する資料の収集・整理と的確な分析により、情報の有効活用に努める。	1, 2			
		2) 『進路資料』等を通して、系統的な進路指導に努める。	1, 2			
		3) 中教審の答申や大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、本校の実態に即した適切な対策を講じる。	1, 2			
	2 3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努めるとともに、附属中からの継続性とサイエンス科の先進的な取り組みを活かす。	1) 進路相談を充実させ、インターネットの利用や「進路通信」の発行を通して情報の提供に努める。	2			
		2) LHR・進学ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して、進路意識の高揚を図る。	2			
		3) 国公立大学・難関私立大学への合格率がアップするように、年次及び教科との密接な連携を図りながら、充実した課外授業やサテライト講座の活用を通して、進路実現に必要な学力を養成する。	2			
		4) 様々な講演会や体験学習ならびに進路指導を通し、大学の先にある将来をグローバルな視点で選択できる力を養う。	2			
	3 各年次及び各教科と密接な連携を図り、効率の良い進路指導に努める。	1) 外部模試は明確な目的のもとで受験させ、結果を速やかに分析・整理して全職員で情報を共有し、事後指導に活かす。	2			
		2) 小論文や論述問題に関する指導は、各教科と連絡を取り、志望校に応じた指導に努める。	2			
		3) 進路関係の研究会には、第1年次及び第2年次担任も出席し、積極的な情報収集に努める。	2			
	4 教員一人一人が資質の向上に努める。	1) 教員の教科指導のセミナーや研修会に積極的に参加し個人の資質を高めるとともに、他の期教員への還元に努める。	1, 2			
	保健厚生部	1 健康で安全生活を営むために必要な生徒一人一人の能力と、自立的な態度を育てる。	1) 生徒達の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	7		
2) 防災機器の点検・管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。			7, 9			
3) 学習環境の衛生管理、及び美化に努める。			7, 9			
2 学習環境を整え、生徒達が安全で充実した学校生活を送れるように努める。		1) 学校保健委員会と連携し、学校保健活動の推進や校舎内外の安全管理・安全指導の徹底を図る。	7, 9			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1) 様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	4.11			
		2) 講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法的重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	4.11			
	2 マナーの向上に努める。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	4.11			
		2) LHRや道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	4.11			
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 自転車指導・バイク指導等の交通安全指導を定期的に行う。	7.11			
		2) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	7.11			
3) 校内研修会を実施し、教職員の危機管理に対するスキルの向上を図る。		7.11				
渉外部	1 保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。	8			
		2) ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	2.3			
		3) 広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画運営を充実させる。	3			
		4) 県北地区事務局として、各高校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。 1,11				
	2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1) 総務委員会・全体委員会での十分な審議をし、結果を会員、生徒に知らせ共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。	3.11			
特活指導部	1 学校生活における生徒の集団活動が有意義なものとなるように支援する。また様々な活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。また、地域の社会に貢献できる人間の育成に努める。	1) 生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体で「望ましい学校像」を実現するため、意識の向上に努める。	3.11			
		2) 学校行事やHRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	3.11			
		3) クラスマッチや野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	3			
		4) 社会性や人間性を高め、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、ボランティア活動を積極的に推進する。	3.11			
		5) 部活動への加入を促し、その活動を教的・質的に活性化し、あわせて生徒個人の自己実現を支援する。	3.10			
学校図書部	1 図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1) 活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	3			
		2) 部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	1.3			
		3) 図書館内の環境整備とOA化を推進する。	7			
2 校内放送の充実と放送技術の向上	1) 活発で創造的な放送委員会活動ができるように支援する。	3				
情報部	1 学校管理支援システムの安定した運用の実施	1) 今年度よりサイエンス科が始動することに伴い、支援システム納入業者等と連携をとって、安定した運用に努める。	8			
	2 情報発信の充実	2) ホームページ等を用いた、校内の情報発信を、迅速・定期的・積極的に行う。	8			
	3 校内ネットワーク快適利用のための整備	3) 校内ネットワークサーバの安定した運用を行うとともに、情報セキュリティの向上に努める。	8			
教育相談部	1 生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) 校内研修会・Hyper-Quの実施等を通して教師や生徒への支援を行う。	4			
		2) スクールカウンセラーや担任・年次と連携しながら、生徒及び保護者への援助活動を行う。	4			
サイエンス部 (サイエンス科)	1 日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	1) 難関理工系、医歯薬系大学への合格者数が増加するように、進路指導部及び年次・教科との密接な連携を図りながら、充実した企画や行事の実施を図り、生徒の学習意欲の高揚に努める。	1.2			
		2) 地域や大学の医師による講義、医療機関等（国内）での研修を柱とした「メディカルセミナー」の内容を充実させる。	1.2.5			
		3) 科学者や研究者による講義、研究機関等（国内）での研修を柱とした「サイエンスセミナー」の内容を充実させる。	1.2.5			
		4) SSH事業と連携しながら「課題研究」や「海外サイエンスセミナー」の内容を充実させ、プレゼンテーション能力の向上や国際的な視野の育成を図る。	1.6.10			
	2 サイエンス科の広報活動を充実させる。	1) 体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。	8			
	2) 「サイエンス科通信」等を通して啓発活動に努め、サイエンス科を志望する生徒を広く募る。	1.2				

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題	
サイエンス部 (SSH)	1 科学の学習に主体的に取り組む生徒、研究成果を積極的に発信できるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けた生徒を育成する。	1) 大学や研究機関、「自立理科クラブ」など地元NPO団体や企業とのつながりを活かし、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的に取り組む生徒を育成する。	10				
		2) 「科学研究発表会」等への参加を通して、「科学する心」を深めるとともに、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上させる。	10				
		3) 「白聖ネイチャースクール」「白聖ジュニアセミナー」を通し、中高連携するとともに、コミュニケーション能力を向上させる。	10				
	2 将来、世界へ発信したり、世界で活躍できる生徒を育成する。	1) 「科学英語」、「海外サイエンスセミナー」、「白聖セミナーⅠ」などにおいて、各教科・分掌と連携を図り、内容を充実させ、国際的な視野やコミュニケーション能力の向上を図る。	5, 6, 10				
		1) 中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	1, 9, 10				
	3 理数系の分野で力を発揮できる生徒を育成する。	2) 高大連携・接続事業を通して、科学に対する興味関心を高めさせ、サイエンスリテラシーの育成に努める。	5, 10				
		1) 「SSH中間報告会」「SSH科学研究成果発表会」を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	8, 10				
	4 SSH活動の活性化を図る。	2) SSHの事業を通し、科学系部活動の活性化を図る。	3, 10				
		3) 教育課程の研究に努める。	1, 2, 10				
	第1年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	4, 7, 11			
			2) HR活動や道徳をとおし、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。	4, 11			
2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を強め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。		1) 進路指導部との連携強化・個別面談の実施・情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。	2, 5				
		2) HRセミナーや大学見学会をとおして、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。	2, 5				
		3) SSH事業や国際交流事業、道徳の授業をとおし世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。	5, 6, 10				
3 授業を大切にしたい学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。		1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。	1				
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。	1				
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。	1				
4 部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。		1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	3				
		2) 課外の実施時間を早朝に設けるなど、部活動と課外活動を両立できる環境を整える。	3				
第2年次		1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	4, 7, 11			
			2) HR活動やその中で行われる道徳プラスをとおして、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高めさせる。	3, 4, 11			
	2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を強め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1) 進路指導部との連携強化、個別面談の実施、情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を高めさせる。	2, 5				
		2) HRセミナーや目標とする大学のオープンキャンパスの参加をとおして、職業観の育成及び上級学校への理解を図る。さらに、高い進路目標を持たせると共に、その実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。	2				
		3) SSH事業や国際交流事業等をとおして世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。	5, 6, 10				
		4) 新教育課程導入に伴う大学受験科目変更への対策など、進路指導部と連携し、組織的に取り組む。	2				
	3 授業を大切にしたい学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。	1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせ、学習方法の仕方を考えさせることにより学力の向上を図る。	1, 2				
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに面談の機会を数多く設け、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。	1, 2				
		3) 授業への意欲を高めさせ、高い学力を育む授業を展開するため、研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。	1, 2				
	4 中堅年次として、部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。	1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等において中心的な役割を担う意欲を高めさせ、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	3				
		2) 課外のあり方を工夫し、部活動や課外活動と両立できる環境を整える。	2, 3				

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題
第3年次	1 高校生活の集大成として、現在そして未来において自らが担うべき役割を自覚させ、自主的・自律的に行動する力をつけさせる。	1) 最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。	4, 7, 11			
		2) 日々の生活の中で、自己と周囲との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。	4, 11			
		3) LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解の深化を促し、主体的に生きる姿勢を身につけさせる。	4, 11			
	2 個々の進路目標の実現をめざし、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1) 授業の重要性を再認識させるとともに、課外・サテライト・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。	1, 2			
		2) 朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、自学・自習の習慣を定着させる。	1, 2			
		3) 進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。	2, 5, 8			
	3 特別活動やホームルーム活動への主体的な参加を促し、集団に寄与する精神を育てる。	1) 学習活動と特別活動の両立をめざし、心身の調和のとれた人間形成を図る。	1, 3			
		2) 各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導する態度を養う。	3			
	4 自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心を育て、国際社会に貢献できる人材の育成に努める。	1) 基礎・基本を重視しつつ、その応用を視野に入れた指導を通して、一人一人の探求心や科学的思考力を高める。	5, 9, 10			
		2) 授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の養成に努める。	2, 6			

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分